3　高校教育改革の基本的方向性

（1）特色ある学校づくりの推進

高校は，役割や機能における面から，大きく次の３タイプに類型化されると考える。特色ある学校づくりは，これらの特色を鮮明にしていくことである。

○　高度な知性や広い視野の育成をめざす学校
○　多様な進路希望に応えるよう様々な教育内容を展開する学校
○　特定の専門分野を深める教育内容を充実させる学校

高校は生徒一人一人の個性・能力を伸ばしていくために学校・学科の特質に応じて，次の３点の方策を活用し，教育方法を改善していくことが必要である。

○　学校の創意工夫による教科・科目の設定と選択幅の拡大
○　履修・指導形態の工夫・改善及び単位認定の弾力化
○　大学など高等教育機関，企業，研究機関等との連携

高校は，生徒･保護者が主体的に学校を選択できるように，次の２点を推進していくことが必要である。

○　学校情報の積極的な発信・公開及び生徒・保護者・地域社会がアクセスしやすい環境づくりの推進
○　学校の教育活動及び学校経営についての評価の推進
　・学校内における自己点検システムの確立
　・外部評価システムの導入

このようにして，高校はそれぞれの特色を明確にしながら，互いに切磋琢磨し，競い合うことにより，質の高い教育を提供する。

以下，学校・課程・学科別に特色ある学校づくりの推進の基本的方向をまとめた。

ア　普通科

特色ある学校づくりを最も鮮明にしなければならないのが，入学者の大半を占める普通科である。普通科高校の個性化にあたっては，多様で柔軟な教育システム等を推進する学校，学校の取組みや地域の特色を考慮し，情報化・国際化の進展，高齢社会の到来に対応したコースを設置する学校，必修科目及びその関連科目を広く学習することを重視する学校のそれぞれの充実に努める。

なお，各高校の特色が全県的に多様なものとなるように，特色ある学校づくりは推進されなければならない。

イ　専門高校・専門学科

将来のスペシャリストとして必要とされる基礎・基本を重視した専門教育を展開するとともに，産業構造・就業構造の変化に対応した学科の改編などを行う。また，高度情報化社会及びグローバル化した社会に対応した新しいタイプの専門学科の設置を検討する。

ウ　総合学科

生徒・保護者の多様な学習ニーズを踏まえた系列の見直しを行う。

その際には，学校間連携等を活用し，教育内容の充実を図る。

エ　中高一貫教育校

6 年間のゆとりある教育の中から生徒の個性や能力を効果的に伸長させる教育内容を創造し，県内各地域の実情等を踏まえ，計画的・段階的な設置を進める。

オ　単位制高校

生徒・保護者及び幅広い人々の多様な学習ニーズに対応する観点から，全県的な配置のバランスを考慮しながら設置を進める。

(7)　全日制課程

地域のバランスを考慮しながら，その充実を図る。

(ｲ)　定時制課程

定時制課程は，1 日の学習時間帯が全日制課程と比べて短く，ゆとりをもって学べる形態が特徴である。この特徴に魅力を感じて勤労青少年以外にも多くの生徒が，定時制課程に入学している。

このようなニーズに応えるため，定時制課程の高校は，原則，単位制とし，学習する機会を求める多様な人々が，自分の学習意欲･関心を充足させ，自分のペースで学ぶことができるよう，その教育システムをさらに弾力化し，通信制課程及び生涯学習機関等の機能も活用する。

(ｳ)　通信制課程

新しいメディアを積極的に活用し，全県的な通信制教育のネットワークの確立を推進する。